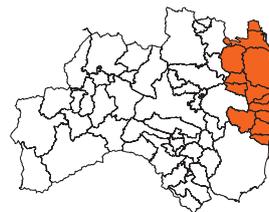


## 【相双コース】



### 「被災地の医療と向き合う」

～”絆”を知る医師を目指して～



【期日】 平成24年9月12日(水)～14日(金) 2泊3日



### 【研修の概要】

相双地域は、東日本大震災とその後の原子力発電所の事故により、物心共に非常に大きな被害を受けました。医療を取り巻く環境においても同様であり、避難指示や設備の損壊などで多くの病院が運営困難となり、現在でも医療従事者の確保など様々な面において厳しい環境が続いています。

今回の研修では、こうした困難の中にあっても、当地に留まりあるいは地域外から自ら進んで来て地域医療に従事している医療関係者との交流や医療施設の視察をします。これらを通じて、復旧・復興に向けてはどのような問題があり、どのような工夫をして取り組んでいるかを学んでいただければと思っています。

また、地域住民や仮設住宅に避難している住民との交流を通じて、住民の側から見た医療に求められる事情や困難さについても理解を深めていただければ幸いです。

### 【過去の研修風景】



病院視察



仮設住宅ボランティア活動



いちご狩り



医療従事者との懇親会

### 【アピールポイント】

- 1 震災の影響により厳しい環境にある医療現場を視察し、現状と復旧・復興への取り組みについて学びます。
- 2 震災により家を失い、応急仮設住宅で生活する方々とボランティア活動を通じて交流し、被災者支援について学びます。
- 3 沿岸部の津波被害の状況を見学します。

## 【地域医療体験研修参加者の声】



今回の研修で初めて相双地域を訪れ、今までメディアを通してしか伝わってこなかった震災の傷跡を生目の目で知り、震災当時の現場の苦労や努力、懸命な思いに触れることができました。震災を乗り越えるためにどれだけ地域の人々が必死で闘ってきたか気づかされました。

医療関係者や地域住民の方々からお話を伺うことができ、地域医療についてじっくり考える機会を与えてもらったのはとても貴重な体験でした。

今回の研修に参加し、充実した時間を過ごさせていただきました。原子力発電所事故の問題で怖いイメージがあった相双地域でしたが、住民の皆さんは本当に普通に生活をされていました。福島で生活していない人たちが、福島産の食べ物のことを心配するのは、ばかばかしいなと思いました。震災後、精神科医療をつないでいこうとアウトリーチ事業をがんばっていらしゃって、本当に素晴らしいと思いました。福島の方々に歓迎され、とてもうれしかったです。是非、日本一健康な県になってほしいです。福島で研修をするとこれくらい「アツク」指導されるのだろうなって思っています。将来お世話になることがあったら、よろしくお願ひします。

## 【行程表】

※全行程バスでの移動となります。

9月12日(水)	[集合]福島駅西口 10:00発 → 10:30着 福島県立医科大学(オリエンテーション) 12:00発 → 14:00着 川内村(川内村国保診療所の視察と地域住民との交流・川内村内視察・医療従事者との意見交換・夕食) [川内村泊]
9月13日(木)	(朝食)8:30発 → 11:00着 相馬市(被災高齢者対策の視察) 11:30発 → (昼食) → 13:00着 南相馬市鹿島区(仮設住宅住民との交流・ボランティア活動) 15:00発 → 15:30着 南相馬市原町区(市内病院の視察・病院長の講話) → 18:00着 南相馬市原町区(医療従事者との懇談・夕食) [南相馬市泊]
9月14日(金)	(朝食・課題研究・研究発表) 11:00発 → 11:30着 相馬市(沿岸部津波被害の視察) 12:00発 → (昼食) → 15:00着 福島県立医科大学 15:10発 → 15:30着 福島駅西口[解散]



